

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について

坂祝町教育委員会

<調査の概要>

国の教育施策として、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況について調査しています。調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に教科（今年度は国語、算数・数学、英語）及び生活・学習習慣で実施しています。この結果を受け、自校の教育指導の充実や学習状況の改善に役立てています。

<教科の結果>

(国との比較：◎良好 ○同程度 △弱い ー設問なし)

教科	観点	小学校	中学校
国語	国語への関心・意欲・態度	○	ー
	話す・聞く能力	○	○
	書く能力	○	○
	読む能力	○	○
	言語についての知識・理解・技能	◎	◎
算数 数学	算数・数学への関心・意欲・態度	ー	ー
	数学的な考え方	○	○
	数量や図形についての技能	○	◎
	数量や図形についての知識・理解	○	○
英語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		ー
	外国語表現の能力		ー
	外国語理解の能力		○
	言語や文化についての知識・理解		○

<今後に向けて>

学校では

小学校は、国語で全国平均よりやや上、算数で同程度の学力が定着しています。特に国語の漢字、算数の計算等、基礎的な学力が身についています。質問紙調査結果からも、家庭での学習習慣が身につけてきていることが伺えます。学校で学んだことを家庭学習で定着させ、学校で定着状況を見届けるというサイクルができています。また、質問紙調査から、「算数が好き」な児童の割合が県・国と比べ非常に高いことが伺えます。これは、算数を校内研究で取り上げ、身近な事象から課題化を図って主体的に取り組めるようにしたり、仲間と協同して課題解決を図ったりするなど、学習過程を工夫したりしていることが要因であると考えます。今後も、小集団学習を積極的に取り入れ、考えを練り合う場を多く設定し、仲間と協力しながら課題解決に向けて取り組むことを大切にしていきます。

中学校は、国語と数学は全国平均よりやや上、英語は同程度の学力が定着しています。特に数学の計算、英語の「読む力」がついています。英語に関しては、質問紙調査の結果から、「外国の人と友達になりたい、外国のことをもっと知りたい」「英語の勉強は大切で、将来役に立つ」と感じている生徒が、県・国と比較して多く、英語学習への関心の高さが伺えます。今後は、「聞く力」に弱さが見られるため、まとまりのある英語文を聞き、話の概要を理解したり、必要な情報を理解したりする機会を大切にしていきます。

地域・家庭では

坂祝町の子ども達は、規範意識が高く、「人が困っている時は、進んで助けたい」「人の役に立つ人間になりたい」という思いをもっている子が多いと言えます。また、学校生活の中で、「ものごとを最後までやり遂げる良さ」や「仲間と協力して取り組む良さ」を感じることができています。地域の中では、地域行事に参加している子の割合が高く、地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらう機会を多く持つことができています。子ども達は、地域の中で、多くのことを学びます。今後も、地域総がかりで子どもに関わり、成長を見守っていくことができるとよいと思います。